



令和元年 6月 28日  
海上保安庁

## かいとくかいざん 「海徳海山」にカルデラ、中央火口丘及び溶岩流を発見

海上保安庁では、東京の南約1,000kmにある「海徳海山（1984年に噴火）」（図1参照）の調査を実施し、海底に広がるカルデラや中央火口丘、中央火口丘の裾野から流れる溶岩流などの火山地形を発見しました。

海上保安庁は、現在も継続して航空機による「海徳海山」の目視観測を実施していますが、平成28年5月の測量船「昭洋」（図2参照）によるマルチビーム測深器を使用した調査では次のことが初めて明らかになりました。

- 「海徳海山」を構成する4箇所の高まり（図3、4参照）のうち、東側の高まり（東海徳場）（図5、6参照）では直径約3,000mの凹地形を取り囲むよう幾重ものカルデラが形成されていることや、そのカルデラの西側に中央火口丘（直径約1,000m、比高約200m、水深97m）があり、カルデラを埋めていることを発見しました。また中央火口丘の北東側及び南側の裾野から溶岩流が流れ出ていたことを発見しました。
- 西側の高まり（西海徳場）（図7、8）は頂部が直径約3,000mの台地状の平坦な地形となっており、平坦部の中央には比高約50mの高まり（水深100m）が見られ、また、台地状の地形周辺には小さな円錐状の高まりが複数見られることを発見しました。

調査結果は、海上交通安全を確保するための基礎資料となるほか、同火山を研究する上でも非常に重要な資料となります。また、7月2日に開催される火山噴火予知連絡会に報告する予定です。直径3kmにわたるカルデラが発見されたことは、過去に大きな火山活動があったことを示唆しており、海上保安庁では引き続き海徳海山の定期監視を続けていきます。

（参考）

- 「海徳海山」の噴火記録  
1984年 海面上に白煙が上がる。  
2001年 海底からの気泡湧出を確認。

- 海上保安庁海域火山データベースのURL

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>

(海域火山データベースは「海しる」からも、ご利用いただけます。)



図1 海徳海山の位置



図2 測量船「昭洋」

総トン数 3,000トン

全長×巾 98m×15.2m

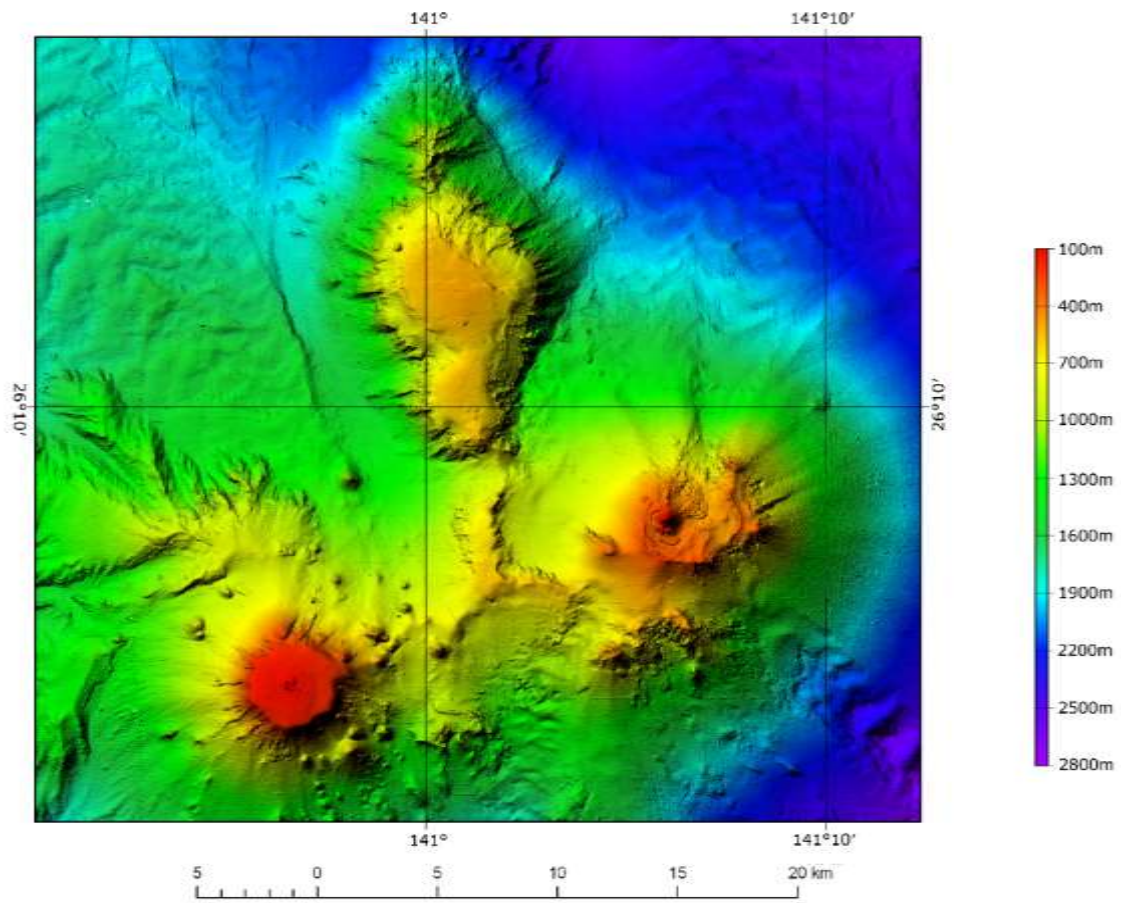


図3 海徳海山の海底地形図

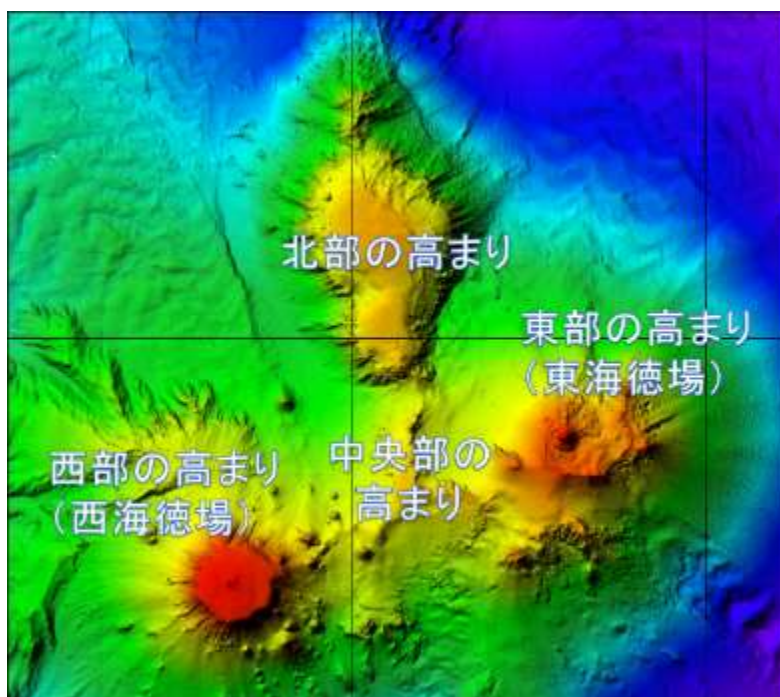


図4 海徳海山の海底地形図の説明



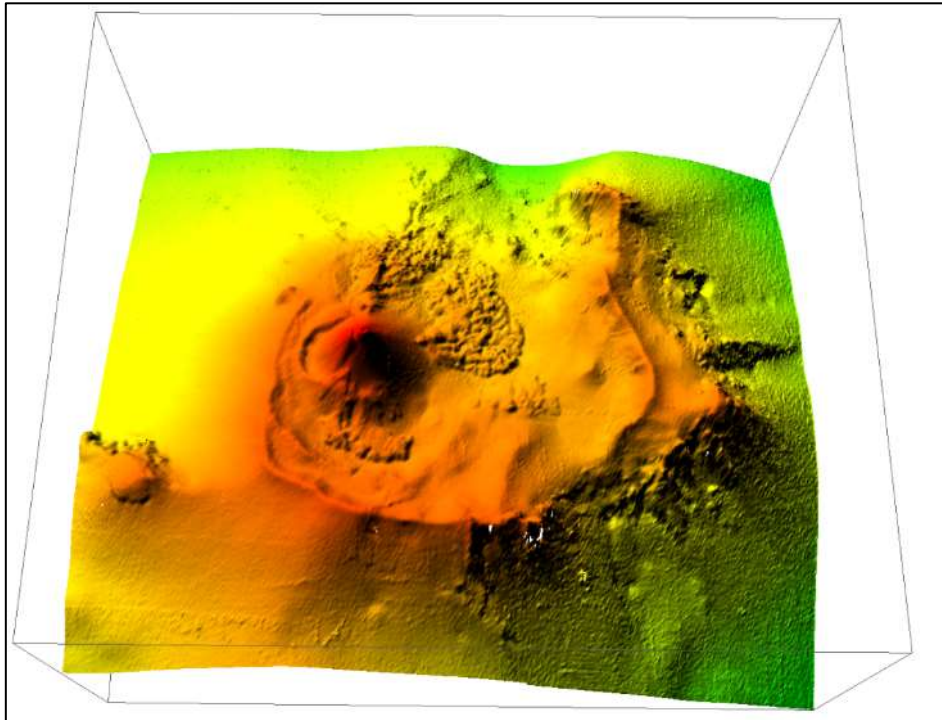


図5 東海徳場 3D 海底地形図

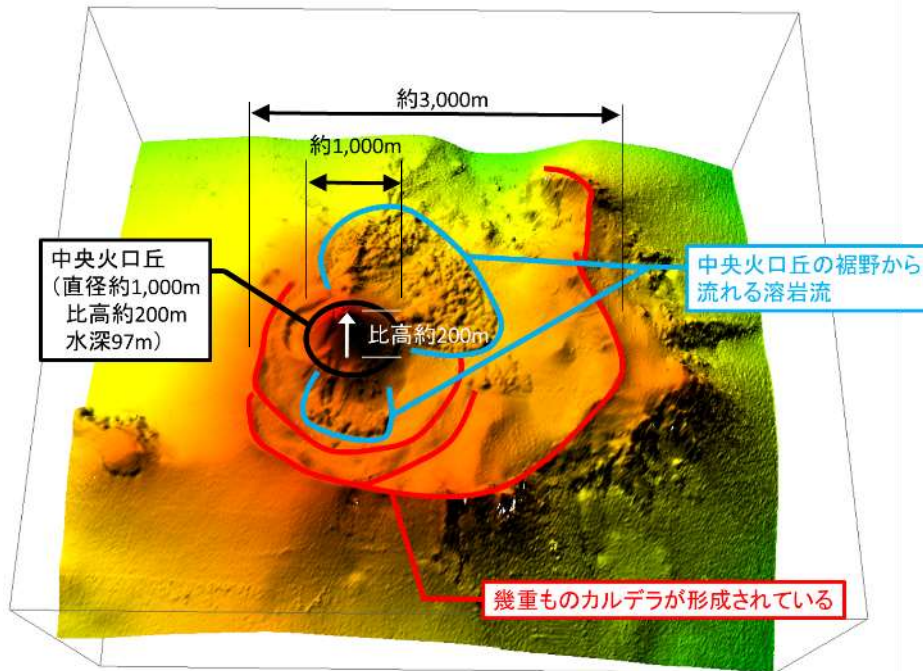


図6 東海徳場 3D 海底地形図の説明

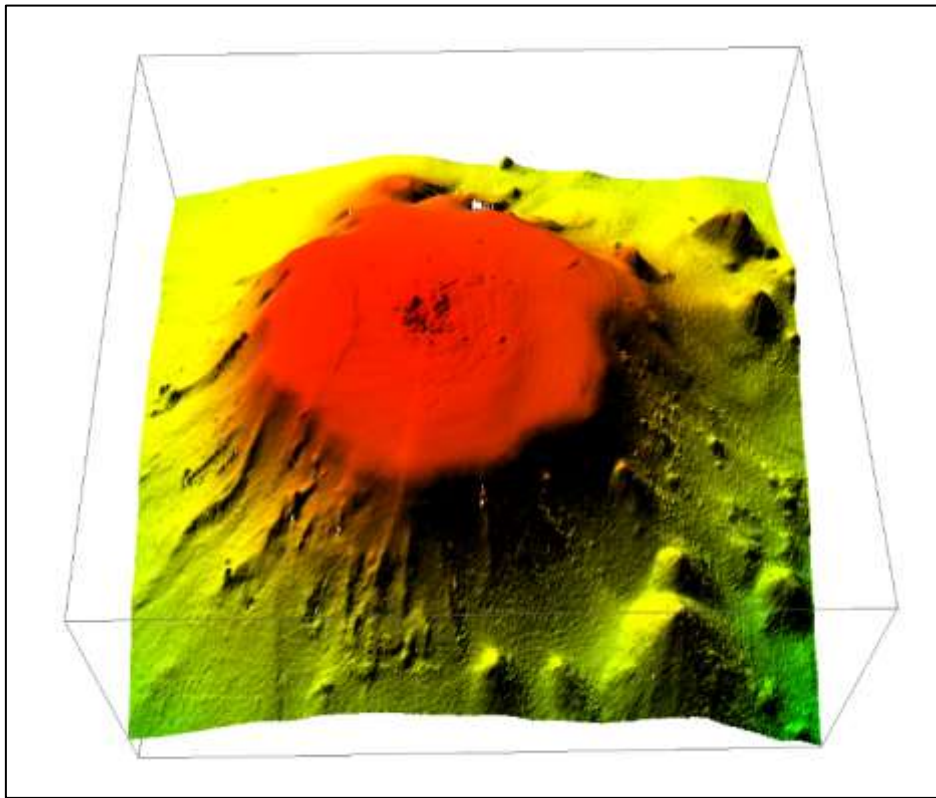


図7 西海徳場 3D 海底地形図

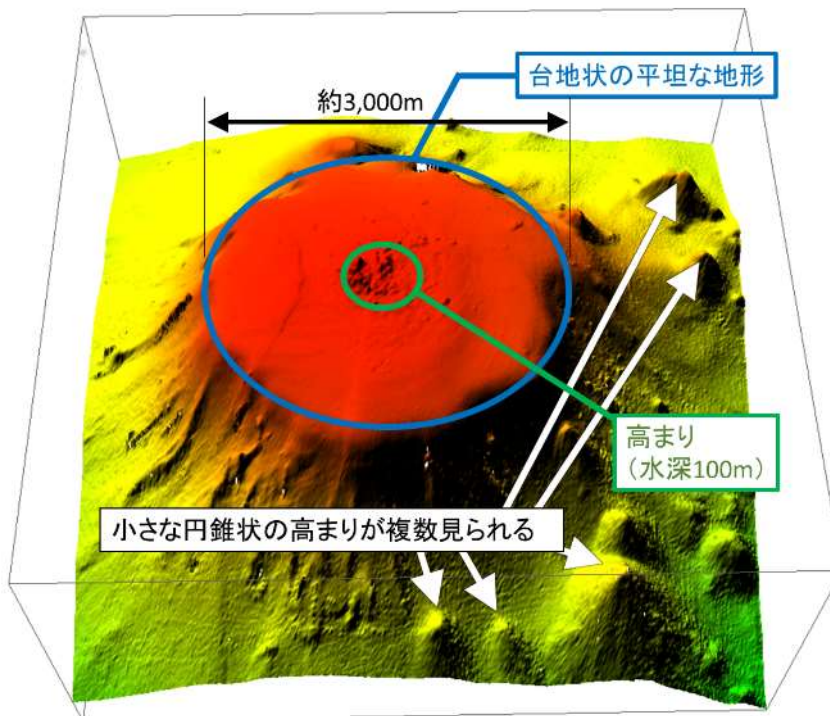


図8 西海徳場 3D 海底地形図の説明